

アーカイヴ

当館では、「研究資料収集方針」¹⁾に基づき、収蔵作家・作品、現代美術研究に関する主要な資料をはじめ、美術館活動（調査研究、収集保存、企画展示、教育普及）を推進する上で必要な資料・情報の収集を行っている。対象となる情報は、館外の文献資料のみならず、日々の活動によって館内で生み出される多様な出来事の記録であり、美術館活動の総体的なアーカイヴ化に取り組んでいる。資料は、当館の研究資料室において保管管理している。

当館のアーカイヴ事業の特徴は、前述の館内の現場で生まれる情報を集積することが主要業務となっている点、さらに対象とする現代美術の多様性に応じてメディア形態が多様である点、そして、情報の著作者である作家の大半が現存作家であり、扱うデータのほぼ全てについての慎重な著作権管理が求められる点の3つを挙げることができる。

展覧会・教育普及・収集保存という活動が、美術館の各所で同時多発、現在進行形で展開する当館では、キュレーターのみならずあらゆる専門スタッフが各自で、常に現場で生起する重要な現象を取材し、ドキュメントとして情報を吟味・整理する。その上で、館として記憶し記録すべきデータが各部門から研究資料室管理に集積されるという流れになる。この3年間で、当館独自のスタッフによるアーカイヴ活動の協働体制の姿が生まれた。刻々と変化するメディアの形式を追いつつ、過去形となったメディアを最適な状態で保管し、コンテンツを新たな形式に保存する作業は急務であるが、現状では、情報機器類のハード・ソフトの更新がまず最優先

の課題となっている。また、あらゆる情報の授受における権利関係の処理・管理については、開館後からスタートした著作権利用許諾の取得の徹底によって、漸次、適正化を図っている。アーカイヴ活動は、情報の収集・管理と同時に公開・活用の使命を負う。適正な権利関係の維持が、とりもなおさず、より広く深い情報の公開と活用につながることは言うまでもない。

なお研究資料室において取り扱う資料のなかでも図書資料、視聴覚資料、画像資料（収蔵作品写真、美術館活動記録写真・映像等）の一部は、交流ゾーンのアートライブラリーにて一般にも開架し、情報の公開にも努めている。

美術関連資料・情報の収集について

当館は、金沢美術工芸大学の附属館として、NACSIS-CATに加盟しており、MARCを活用しながら図書登録作業を行っている。また、自館の収蔵作品データベース内に、図書管理データベースを構築しており、オフラインでデータを移行し、自館OPACでの情報公開を行っている。²⁾

資料収集（整理）冊数

		2007年度	2008年度	2009年度
図書	研究資料室	218	386	204
	アートライブラリー	125	159	144
雑誌	研究資料室	721	699	613
	アートライブラリー	661	606	611
視聴覚資料	研究資料室	—	—	—
	アートライブラリー	—	4	1
計	研究資料室	939	1085	817
	アートライブラリー	786	769	756

美術関連資料の特別寄贈について

粟津潔作品受贈時に、粟津デザイン室より粟津潔氏に関する文献資料および写真資料を研究資料として受け入れた。

①文献資料（図書） 89冊

②記事スクラップファイル（8冊）

粟津デザイン室にてアーカイヴされている記事スクラップファイル一式を借用し、複写して研究資料として受け入れた。記事のリスト化を行い、出典不明の記事については、書誌情報調査を行った。

寄贈を受けた文献資料および記事リストは、展覧会に際して刊行された書籍『粟津潔：荒野のグラフィズム』に「粟津潔主要文献目録」として、その一部が公開された。³⁾

③写真資料

粟津デザイン室より作品写真ポジフィルム一式を借用し、当館に寄贈された作品と同一と同定できたポジフィルムについては、粟津デザイン室の許諾のもと、印刷会社による高精細デジタル化を実施した。また、複数枚保管されていたポジフィルムについては、各1点、寄贈を受け入れた。

その他の作品写真については、内部にてスキャン作業を実施し、調査研究資料として整理、保管した。

美術館活動の記録・保存管理について

収蔵作品写真、展覧会展示風景写真、展覧会関連プログラム記録写真および映像、その他、調査研究画像を整理、保存、活用している。

収蔵作品写真および展覧会展示風景写真は、ポジフィルム存続が危ぶまれるなか、4×5カラーポジフィルムでの撮影を極力継続しつつ、デジタル撮影も導入している。また、撮影と並行して、写真家の監修のもとポジフィルムの高精細デジタル化を進めている。

2009年度に開館5周年を記念して、『金沢21世紀美術館 コレクション・カタログ』編纂を開始した⁴。編纂を機に、2009年度においては、作品画像の再整理を重点的に進め、未撮影作品を洗い出し撮影を推進した。画像のクレジット情報を整理し、画像アーカイブを整理構築に取り組んだ。

展覧会関連プログラム記録は、美術館スタッフによる撮影が主である。展覧会のなかでも、とりわけ多数の関連プログラムが展開された「荒野のグラフィズム：栗津潔」展（2007年度）や、「愛についての100の物語」（2009年度）においては、関連プログラム記録映像は両展とも100本以上の記録メディア（mini-DV）に記録され、記録写真においては、万点単位のデジタル画像が記録された。また、ワーク・イン・プログレス型の長期プロジェクト「金沢若者夢チャレンジ・アートプログラム」においては、日々変容してゆく展覧会の活動記録として、写真、映像は膨大な点数、時間が記録されアーカイブされている。

2007—2009年度は、美術館活動記録の重要性を再認識し、美術館活動アーカイブとしてドキュメントを残してゆくことが強く意識化された時期であった。

収蔵作品、展覧会展示風景の撮影点数およびデジタル化点数内訳

[撮影]

		2007年度	2008年度	2009年度
収蔵作品	ポジ	80	63	101
	デジタル	459	7	37
計		539	70	138

		2007年度	2008年度	2009年度
展覧会展示風景	ポジ	78	116	17
	デジタル	243	174	539
計		321	290	556

[デジタル化]

		2007年度	2008年度	2009年度
収蔵作品		74	69	32
展覧会展示風景		65	82	0
計		139	151	32

(石黒礼子／アーカイヴィスト)

*1. 金沢21世紀美術館は、現代美術やその動向に関する情報を提供し、今を生きる人々の活動及び都市の活性化に寄与するため、国内外の美術関連資料・情報を収集する。

また、調査研究機関としての美術館の研究活動を支援するため機能充実を図り、美術館活動を記録し、保存管理する。

http://www.kanazawa21.jp/data_list.php?g=66&d=1

*2. 当館の蔵書については、金沢美術工芸大学付属図書館OPACにて検索可能。

<http://lib.kanazawa-bidai.ac.jp/mylimedio/search/search-input.do?mode=comp&nqid=1>

当館ウェブサイトで公開しているOPACでは、アートライブラリー所蔵の蔵書のみが検索可能。

<http://www2.kanazawa21.jp/public/index.htm>

より「Books」を選択するとOPAC画面へ移動。

*3. 『栗津潔：荒野のグラフィズム』フィルムアート社、2007年11月「栗津潔主要文献目録」pp.246—248

*4. 2010年3月までに当館が収集した164作家、約3,500件の収蔵作品を紹介するコレクション・カタログとして、2011年2月に刊行。